容器包装

一緒につくりたい2050年の社会

容器包装を持続可能に循環している社会

持続可能な容器包装を
開発し普及します

容器包装の持続可能な
資源循環システムを構築します

基本的考え方

お客様のもとへ品質を守って商品をお届けするためには容器包装が必要ですが、家庭から出るゴミに占める使用済み容器包装の比率が高いことも事実です。この課題に対処するために業界を挙げて3Rを推進し、高いリサイクル率を達成してきましたが、すべてが循環しているとはいえず、容器包装材料の持続可能性についても配慮が必要となってきています。キリングループでは、継続して容器包装を軽量化していくとともに、PETボトルへの再生樹脂利用比率の向上や紙容器のFSC化など、容器包装を持続可能に利用する取り組みを進めています。

材料
- P.46 持続可能なPETボトル
- P.47 紙容器へのFSC認証紙採用

Reduce
- P.48 カートン
- P.49 リターナブルびん
- P.48 6缶パック
- P.50 PETボトル
- P.49 缶
- P.51 パッケージイノベーション研究所

Reuse
- P.54 リターナブルびん

Recycle
- P.52 PETボトル
- P.52 缶
- P.52 びん
- P.53 オーストラリアでのリサイクル

社会
- P.55 社会とともに

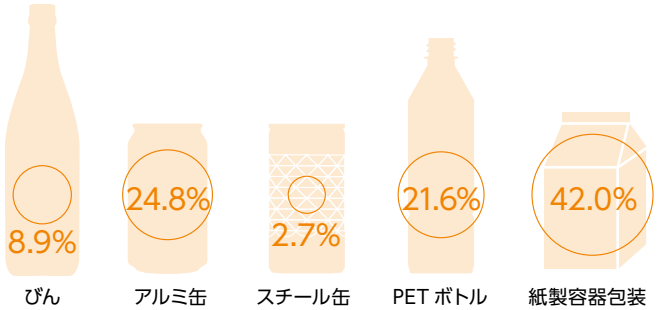
取り組みの概要

キリングループでは、自社に「パッケージイノベーション研究所」を保有している強みを生かして、多くの容器包装で国産最軽量を達成してきました。リサイクルの推進においては、国内では業界団体や社会の参加も求めながら3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進することで、世界的に見ても高いリサイクル率を達成してきました。オーストラリアでも、施行された容器デポジット制度に対応し、各州で容器デポジット制度を管理・運営する製品管理団体に任命されるなど、リサイクルの推進に積極的に参加しています。

プラスチック廃棄物の課題に対しては、2019年2月に「キリングループ プラスチックポリシー」を策定し、この中で日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指すと宣言し、取り組みを始めています。紙容器へのFSC認証紙採用も推進し、キリンビール・キリンビバレッジの紙容器は2019年中にすべてFSC認証紙に切り替わっています。今年発表した新しい長期戦略「キリングループ環境ビジョン2050」では、2050年までにリサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装100%化を目指して取り組むことも表明しました。

容器別重量比率

キリンビール　キリンビバレッジ　メルシャン

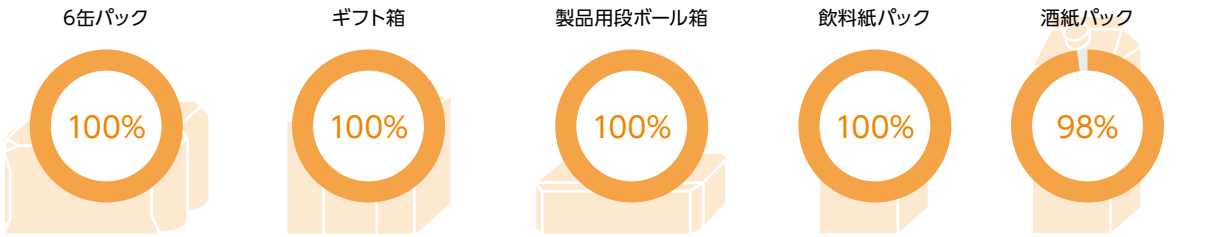


実績ハイライト

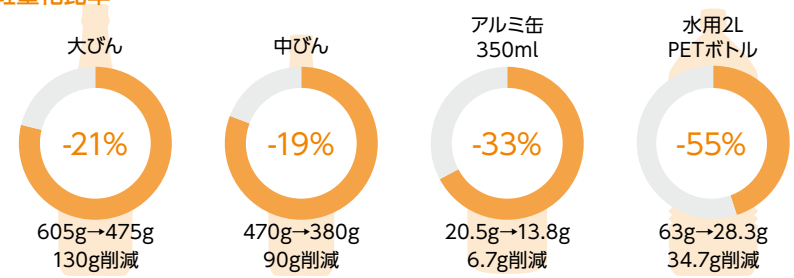
課題	達成状況
持続可能な容器包装を開発し普及します	「キリングループ プラスチックポリシー」を受けて、「キリン 生茶デカフェ」430mlに再生PET素材100%の「R100ボトル」を採用し、そのことを製品ラベルに表示しています(再生PET素材100%のPETボトルは「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」の一部で2014年から継続して使用しています)。紙容器については、2019年末までに6缶パック、ギフト箱、製品用段ボール、飲料用紙パックのすべてでFSC認証紙に切り替わり、酒類紙パックも約98%がFSC認証紙に切り替わっています。また、軽量化にも注力し、すべてのサイズのリターナブルビールびん、2LのPETボトルで、国内最軽量容器を開発・採用しています。
容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します	リターナブルビールびんのリユースシステムを堅持するとともに、各種リサイクル団体を通じた活動、自主的なアルミ缶回収支援、分別しやすい容器包装、消費者啓発活動などを通じて、国内の容器包装のリサイクルを推進し、世界的に見ても高いリサイクル率を維持しています。PETボトルのリサイクルシステムについても、2027年の目標達成のための検討を進めています。オーストラリアにおいては、施行された容器デポジット制度に対して積極的な役割を果たし、容器デポジット制度を管理・運営する製品管理団体にも任命されています。

達成状況

FSC認証紙比率



軽量化比率



リサイクル樹脂比率

持続可能な容器包装を開発し普及します

持続可能な材料

プラスチックポリシー

プラスチックは利便性から様々な製品や容器包装などに使用されています。その種類や用途は多岐にわたり、使用された樹脂の種類によって回収率やリサイクル率が異なり、すべてが効率的に循環しているとは言い難い状態です。また、環境中に捨てられたプラスチックごみが最終的に海に流れ、海洋汚染や生態系に影響を及ぼしている可能性が国際的にも指摘されています。

「プラスチック廃棄物課題」は、環境に関する大きな社会課題の1つです。キリンホールディングスは、2019年2月にこの課題の解決に向けた取り組み方針「キリングループ プラスチックポリシー」を策定しました。この中で、PETボトルの資源循環をさらに推進するために、日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指すこと、さらに、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPETボトル樹脂の導入の検討も進めていくことを宣言しました。さらに、2020年2月「キリングループ環境ビジョン2050」の発表に併せて、2050年までに、リサイクル材やバイオマスなどを使用した、持続可能な容器包装100%化を目指すことも表明しました。

キリングループでは、プラスチックが抱える本質的な課題を把握し、グループ各社が提供するプラスチック容器包装などに対する適切な取り組みを迅速に進めることで、プラスチックの持続可能な使用および資源の循環を推進していきます。

プラスチックポリシーは→P.88

持続可能なPETボトルの使用

キリンビバレッジでは、近年安全なPET樹脂再生の手法が確立したことを受けて、再生PET素材をPETボトル原料として使用する取り組みを推進しています。その手法「メカニカルリサイクル」では、洗浄のあと真空に近い状態の高温下で処理を行うことで、樹脂の内部に留まっている不純物を揮発させながら除去するほか、リサイクル工程中に低下した分子量をボトル成形に適したレベルに回復させることができます。

2014年2月から「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」のパッケージの一部に、再生PET素材100%のPETボトルの採用を開始しました。このボトルは、一般的な石油由来PET素材に比べてCO_2排出量を50～60%削減することができます。さらに、2019年6月からは「キリン 生茶デカフェ」430mlにも採用を拡大し、パッケージには再生PET素材100%のボトルであることを示すR100の表示をつけています。

なお、「キリン 生茶デカフェ」R100ボトルは、2019年に公益社団法人 日本包装技術協会が主催する「2019日本パッケージングコンテスト」において「ジャパンスター（日本包装技術協会会長賞）」を、2020年には世界包装機構（WPO:World Packaging Organization）が主催する「ワールドスターコンテスト 2020」のビバレッジ部門において「ワールドスター賞」を受賞しています。

紙容器へのFSC認証紙採用

キリングループは、2017年2月に「CSVコミットメント」を定め、その具体的な取り組みの第一弾として、2013年に定めた「持続可能な生物資源利用行動計画」を改訂し、2020年末までに、すべての紙製容器包装でFSC認証紙への切り替えを目指すことを宣言しました。これは、容器包装の材料そのものを持続可能にする段階に入ったことを示しており、「環境ビジョン2050」の「生物資源」と「容器包装」の両課題に係わる重要な取り組みとして位置づけられています。

この取り組みの大きな特徴は、FSC認証紙を採用する対象が、「6缶パック」「ギフト箱」「紙パック」「製品用段ボール箱」とすべての紙容器を網羅していることであり、日本のメーカーでは初の宣言となっています。

飲料では、宣言前の2016年5月の時点で「トロピカーナ100%」シリーズの250ml紙パックでFSC認証紙を全面的に採用していましたが、宣言後の2017年3月には「トロピカーナ」900ml紙パックで、さらに同年5月には「キリン 午後の紅茶 サマーシトラスティー」紙パックでFSC認証紙を採用しました。その後、順次採用を進めて、2018年10月末に、飲料用6缶パック、製品用段ボール箱、2019年11月末にはキリンビバレッジのすべての紙容器でFSC認証紙採用100%を達成しました。

酒類では、2017年11月末にビール用6缶パックのすべてのサイズでFSC認証紙100%を達成し、同年10月には「キリン一番搾り生ビールセット」のギフト箱でも認証紙を採用しました。2019年3月末には、ギフト箱、製品用段ボール箱でFSC認証紙100%を達成し、キリンビールのすべての紙容器でFSC認証紙100%を達成しています。残る酒類紙パックもFSC認証紙比率が98%を超えており、2020年中には100%になる予定です。

FSC認証紙を使用した「トロピカーナ100%まるごと果実感」シリーズ900ml紙パック（右）と「トロピカーナ エッセンシャルズ」330ml紙パック（左）

飲料６缶パックもFSC化が進展（写真は缶コーヒー「キリン ファイア」）

フルリニューアルされた「キリン一番搾り生ビールセット」にも、FSC認証紙のボックスを採用

すべてのサイズでFSC認証紙に切り替わったビール6缶パック

FSC ロゴ

FSC®C137754

FSC認証紙の目標と達成状況

2020年3月末現在での達成状況は、以下の通りです。

FSC認証紙使用の目標と達成率

種別	目標	目標年	FSC認証紙比率	FSCラベル付与比率
ビール6缶パック	100%	2017年末	100%	約93%
飲料6缶パック	100%	2017年末	100%	約78%
ギフト箱	100%	2020年末	100%	約70%
飲料紙パック	100%	2020年末	100%	約75%
酒紙パック	100%	2020年末	約98%	約9%
飲料製品用段ボール箱	100%	2020年末	100%	約70%
ビール・RTD製品用段ボール箱	100%	2020年末	100%	約60%
ワイン・焼酎製品用段ボール箱	100%	2020年末	100%	0%

生物資源に関する方針は→P.87～P.88

ビール6缶パック、製品用段ボール箱の上面へのFSCロゴの表示

キリングループでは、森林を守る大切さを実感いただけるようにFSC認証ラベルの表示も進めています。2017年5月に、日本で初めてFSC認証ラベル付きのビール6缶パックを発売したのをはじめとして、同年10月製造分から順次6缶パックの底面に認証ラベルの表示を開始し、現在ではほとんどの6缶パックの底面に表示されています。

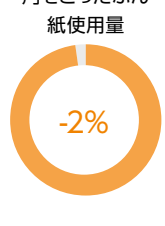
飲料でも紙パックの口部分や側面に表示を開始しており、すでに半数以上で確認することができます。

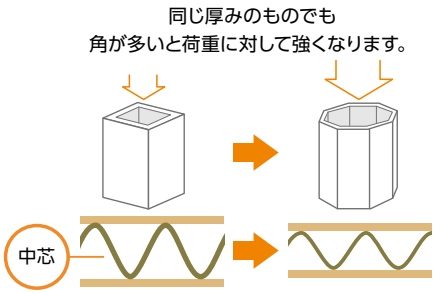
さらに、2019年1月出荷分からは、酒類6缶パックと製品用段ボール箱の上面にFSCロゴの表示を開始し、店頭に並ぶほとんどの製品でFSCロゴを見ることができるようになりました。

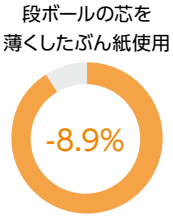
リデュース

コーナーカットカートン

パッケージイノベーション研究所が開発し2004年から導入した「コーナーカットカートン」は、四隅を切り落とすことによる軽量化と、側面が8面構造となり強度が向上にすることによる薄肉化により、従来から10.9%の軽量化を達成しています。

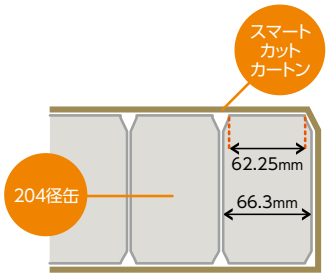






スマートカットカートン

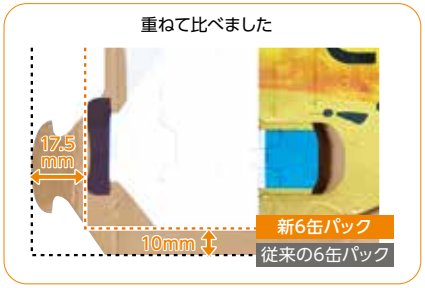
2015年から導入した「スマートカットカートン」は、「コーナーカットカートン」の技術を基に、軽量化に加え、蓋の口径を小さくした204径缶の肩にできる空間に合わせカートン長側面上部の角を切り落とした形状にしたものです。これにより、それまでのコーナーカットカートンより16%軽量化できています。
パッケージイノベーション研究所が容器包装メーカーと共同開発を行い、共同意匠権を取得しています。



6缶パック

6缶パックでは、持ちやすさ、取り出しやすさに加え、軽量化の工夫を随所に施しています。たとえば、パックの側面部に缶の縁に合わせた切り抜き部を新たに設け（キリン特許）、紙で缶の底を安定させる「缶底ロック機構」を使うことで、500ml用6缶パック包装資材で1枚当たり4g、従来よりも8%削減しながら、缶のホールド性も向上させています。

紙が少ない
感じがしますが
ホールド力は
従来品以上



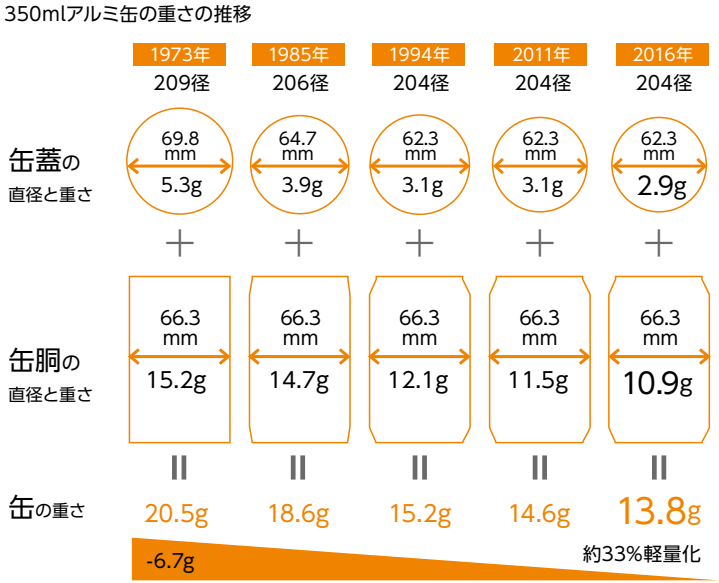
国産最軽量アルミ缶

ビール用アルミ缶では、缶蓋の口径を小さくし、胴部の上下部分を絞ることで胴部の重量を削減するとともに胴部の薄肉化を進めることで、現在の「204径缶」は「209径缶」当時と比べ350mlアルミ缶で約29%の軽量化を実現しています。

さらに、2016年には資材メーカーと共同で、缶蓋、缶胴の両方を薄肉化した国産最軽量となるアルミ缶を開発しました。缶全体の重さを14.6gから13.8gとし、約5% (0.8g) 軽量化を実現しています。これにより、209径缶と比べて33% (6.7g) の軽量化を果たしました。缶の素材としては、スチールとアルミがあり、どちらも軽量化が必要ですが、特にアルミの場合は製錬に大量の電気が必要なこともあり、GHGのScope3排出量削減に大きく貢献しています。

飲料用スチール缶では、「FIRE 挽きたて微糖」のダイヤカット190gスチール缶で、2011年には2008年比で17%の軽量化を達成しています。

※缶蓋の大きさを示す数字は、例えば「204」であれば缶蓋の直径が2+4/16インチであることを示しています。



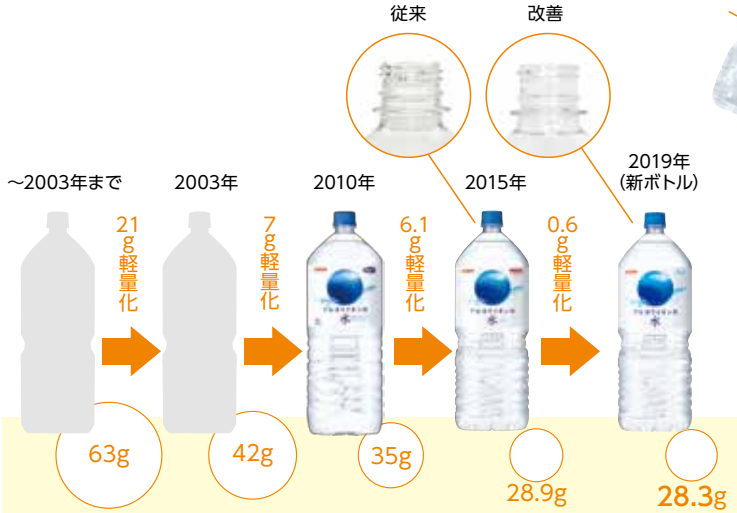
国産最軽量リターナブルびん

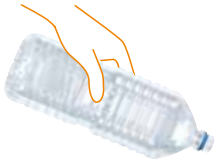
リターナブルびんには、軽量化とともに「耐久性を求められるリターナブル性能」と「お客様の安全・安心確保のための強度」が必要です。

そこで、パッケージイノベーション研究所では、外表面に薄い皮膜を作る「セラミックスコーティング」、衝撃に強くするための形状設計、「開栓しやすさ」と「密閉性」という相反する条件と「口欠けしない強度」を持った口部の設計などを駆使して、大・中・小すべてのサイズのビール用リターナブルびんで、国産最軽量を達成しています。

国産最軽量PETボトル

キリングループではPETボトルの軽量化を目指して、パッケージイノベーション研究所での技術開発を継続的に行っています。
その中でも「キリン アルカリイオンの水」2L PETボトルは、2003年6月以前の63gから2015年には28.9gに軽量化し、さらに2019年には、国産最軽量の28.3gを達成しています。
単純に薄肉化しただけではボトル強度が保ちにくくなるため、適切な強度と持ちやすさを兼ね備える設計とし、さらに飲み終わったら小さな子どもの力でもボトルを簡単に潰すことができるよう工夫しています。
2019年4月には、口部のねじ山をより細くし、ネジの長さを削減するなど、ネジ部の改良によりさらに軽量化を進めました。これにより、年間約107tのPET樹脂と約375tのCO_2削減が可能となります。

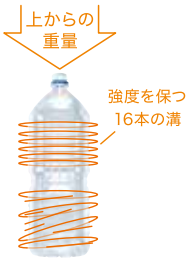




持ちやすい凹み「しっくりグリップ」

PETボトルを持つとき最も力が加わる指掛かり部分（くぼみ上側）に補強のための溝を設け、持ち上げる際には凹みに指が掛かり女性でも安定して掴めます。

「キリン アルカリイオンの水」2L PETボトル



つぶれないボトルの強さ

軽量化しても強度が保てる「スパイラル型の溝」。従来に比べPET樹脂の使用量を年間983t削減可能に。

その他のリデュース

ショートフラップカートン

側面フラップ面積を縮小し省資源化。製造時のCO_2発生量も10%削減

スチール缶

FIREブランド「挽きたて微糖」のダイヤカット190gスチール缶は2011年には2008年比で17%の軽量化

ラミネート缶

成型時に水を使用せず内側の塗装行程の省略によりCO_2発生量を削減

コーナーカットカートン

四隅を切り落として省資源化

ライオンでも、2016年にワンウェイびんで205gから190gへの軽量化を達成

パッケージイノベーション研究所

パッケージイノベーション研究所は、キリングループの酒類・飲料事業のパッケージングライン・容器包装関連の技術の開発・評価を行っています。国内酒類飲料メーカーとしては数少ない、自社で容器包装の開発などを行っている研究所です。びん・缶・PETボトル・段ボールなどの紙包装など、長年蓄積してきた技術を活用して、製品化に必要な技術支援を行うほか、新しい包装容器によって、お客様・社会が豊かになる技術シーズの創出を推進しています。
研究所内には、ビールをガラスびんやアルミ缶に充填する機械や、びんにラベルを貼り付ける機械があり、小さな工場に匹敵する設備が揃っています。

主な受賞

年	表彰名	表彰対象	商品	実施団体
2020年	ワールドスター賞	R100ボトル	キリン 生茶デカフェ	世界包装機構(WPO)
2018年	ワールドスター賞	国産最軽量ビール中びん	リターナブル中びん	世界包装機構(WPO)
2017年	第41回木下賞	国産最軽量アルミ缶	ビール用アルミ缶	公益社団法人 日本包装技術団体
2016年	第40回木下賞	NEWペコロジーボトル	キリン アルカリイオンの水	公益社団法人 日本包装技術団体
2015年	ワールドスター賞	国産最軽量 2L PETボトル	キリン アルカリイオンの水	世界包装機構(WPO)
2013年	ワールドスター賞	国産最軽量 ワンウェイびん	GRAND KIRIN THE AROMA	世界包装機構(WPO)
2013年	アジアスター賞	国産最軽量 ワンウェイびん	GRAND KIRIN THE AROMA	アジア包装連盟(APF)
2010年	サスティナビリティ賞 金賞	NEWペコロジーボトル	キリン アルカリイオンの水	世界包装機構(WPO)
2010年	ワールドスター賞	NEWペコロジーボトル	キリン アルカリイオンの水	世界包装機構(WPO)
2010年	アジアスター賞	NEWペコロジーボトル	キリン アルカリイオンの水	アジア包装連盟(APF)

容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します

リサイクル

PETボトルのリサイクル

キリングループは、PETボトルリサイクル推進協議会の一員として、PETボトルのリサイクルを推進しています。PETボトルリサイクル推進協議会の第三次3R推進自主行動計画（2016年度～2020年度）では、リサイクル率85%（基準年度:2004年度）の目標に向けて取り組んでいます。

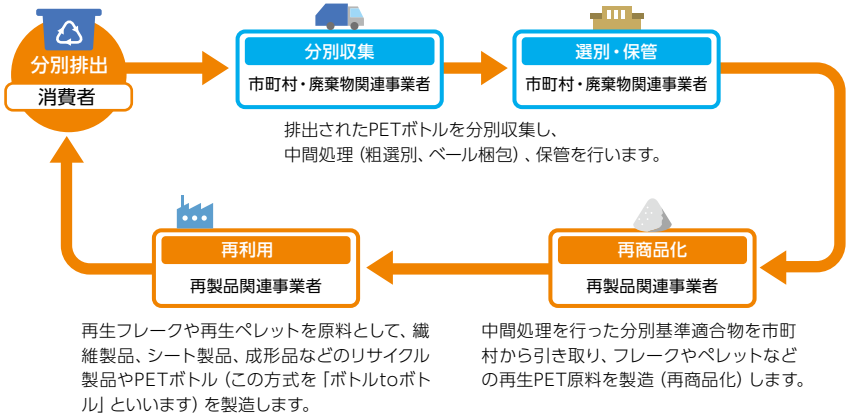
缶のリサイクル

キリングループは、再生地金の比率の高いアルミ缶の採用を進めています。また、アルミ缶リサイクル協会に加入するとともに、飲み終わったアルミ缶の回収支援も行い、空き缶のリサイクルを推進しています。
アルミ缶リサイクル協会の第三次3R推進自主行動計画（2016年度～2020年度）では、アルミ缶、スチール缶ともにリサイクル率90%（基準年度:2004年度）の目標に向けて取り組んでいます。

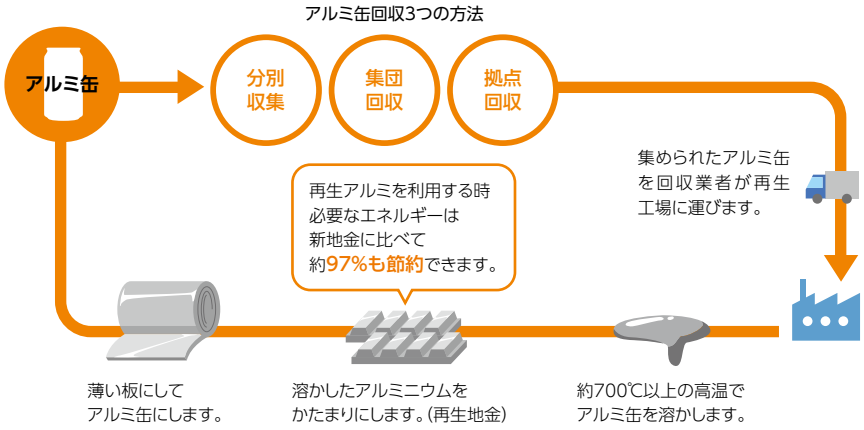
びんのリサイクル

古くなってリターナブルびんとして再使用できなくなったビールびんや、一度だけ使用されるワンウェイびんは、カレットになって再び主にびんの原料となります。
さらに空きびんの100%資源化を目指し、ガラスびんに再利用しづらい色びんのカレットの活用も推進し、タイル、ブロックなどの建築材料や道路舗装材などの「その他の用途」にも再利用先を広げています。

PETボトルのリサイクルの流れ



CAN to CANの流れ



ライオンのリサイクルの取り組み

ライオンでは、リサイクル素材やリサイクル可能な包装材の採用増を目指す戦略的目標に沿って、包装材の環境負荷を継続的に削減する複数の取り組みを2019年に実施しました。

5 Seeds CiderとTooheys Extra Dryのボトルサプライヤーを中東の業者から地元のアデレードの業者に変更することで、中東からアデレードへの国境を越えたボトルの輸送を回避し、West End Breweryの炭素排出量を大幅に削減しています。

また、飲料ボトル用ラベル資材の梱包にはプラスチック袋が使われていましたが、これを廃止して使用量を年間65,000枚削減しました。ストレッチフィルムも20μmから15μmに変更し、年間プラスチック使用量を100t削減しています。

Burnie工場の段ボール規格ではリサイクル率が大幅に向上し、既製カートンの蓋で平均42%から100%に上昇しています。また、年間約263tの段ボール削減を実現しました。段ボール重量も、段ボールの規格によって約3.4%から最大10%削減し、段ボール使用量を年間23.5t減少させています。

外装のプラスチック袋をなくした飲料ボトル用ラベル資材

その他のリサイクル

PETボトル

再生利用を容易にするため透明PETボトルを使用

アルミ缶

できる限り再生地金の比率が高い缶を使用

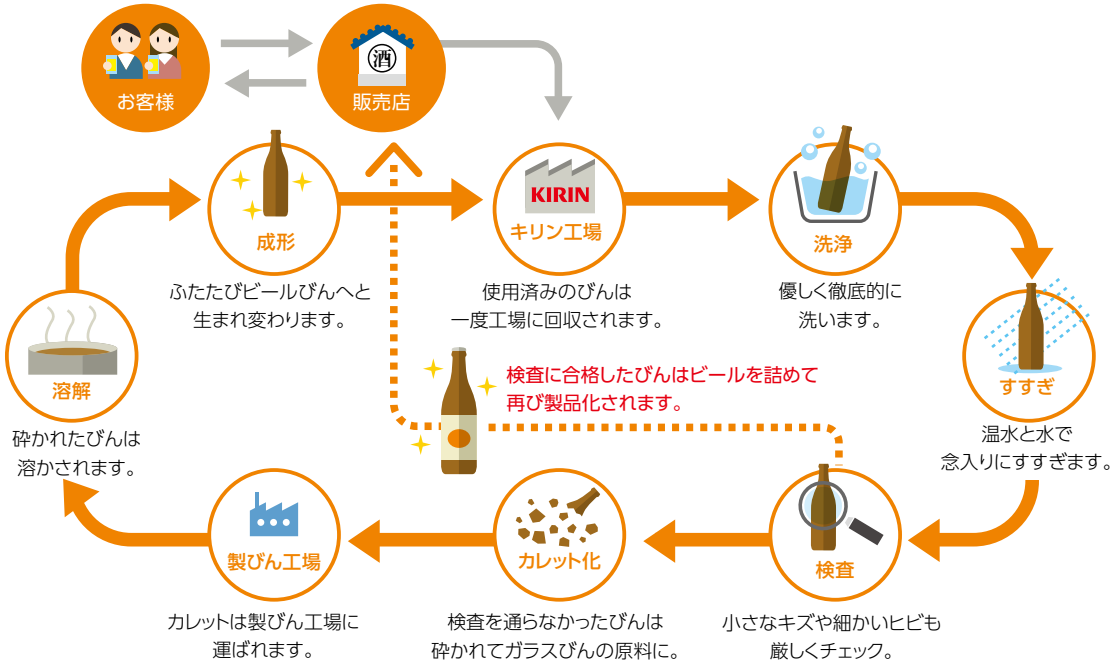
外箱カートン

再生利用に適した段ボール

リユース

びんのリユース

日本では、ビールびんは「3R」という言葉がなかった明治時代から回収され、何度も使われてきました。
ビール工場へ戻ってきたリターナブルびんは、内と外を徹底的に洗い、新品同様きれいにします。キズやヒビがないかを空きびん検査機で厳しくチェックした後、再びビールが詰められ、製品化されます。丁寧に扱われたリターナブルびんなら、平均寿命は約8年、回数にすると約24回再使用されます。
小さなキズや細かなヒビが入ったびんや、長い間使われて古くなったびんは、砕かれて「カレット」と呼ばれるガラスびんの原料として使用されます。



キリンビールおよびキリンビバレッジのリターナブルびん回収率の推移は→P.58

その他のリユース

リターナブルびん（酒類）

リターナブルびん（清涼飲料）

業務用大樽（ステンレス製）

社会とともに

自販機専用空容器リサイクルボックスへの消費者啓発ステッカーの貼付

キリンビバレッジが加盟する全国清涼飲料連合会では、2018年11月29日に「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」を行いました。

その1つの取り組みとして、自販機横の「自販機専用空容器リサイクルボックス」が、リサイクル目的に空容器だけを集めていることを消費者のみなさまに知っていただくため、2019年5月より50万枚のステッカー貼付活動を展開しています。PETボトルを100%有効利用するため、清涼飲料業界として「異物混入ゼロ」を目指していきます。

自主的なアルミ缶回収

キリングループでは、アルミ缶リサイクル協会に加入してアルミ缶のリサイクルに取り組んでいます。さらに、これとは別に、缶メーカーが行っている使用済みアルミ缶の回収活動を支援しています。この活動で集められるアルミ缶は毎年4万tを超え、すべてアルミ缶にリサイクルされており、そのアルミ缶も使用しています。

キリンビールが提供している回収用の袋

自動販売機空容器回収

キリンビバレッジで設置した自動販売機では、商品の提案・補充・自動販売機の保守・修理まで一貫してオペレーションを実施しますが、これに加えて環境保全のために空容器の回収から自動販売機周辺の清掃まで行っています。

分別しやすい容器包装

容器包装では、できるだけ単一素材で構成したり、単一素材に分離して廃棄できるように配慮しています。また、容器包装のリサイクルを啓発するために、分別しやすい容器包装の提供を行っています。一般的な処理施設で問題なくリサイクルできるような配慮も行っています。

消費者啓発活動

容器包装のリサイクルについて業界で最も詳しく情報提供を行っているサイト「キリンの容器開発と3R」や、子ども向けサイト「KIRIN KIDS」での3Rの啓発など、インターネットを活用した啓発活動を行っています。また、若年層向けワークショップ「キリン・スクール・チャレンジ」でも容器包装の3Rをテーマに取り上げています。

さらに、省資源でつぶしやすい環境配慮型容器「ペコロジーボトル」を導入したタイミングで登場させた環境キャラクター「エコパンダ」を活用して、若年層への啓発活動を行っています。

G20大阪サミットにおける「G20イノベーション展」、国際メディアセンター(IMC)広報において、再生PET樹脂100%の「キリン生茶デカフェ」の「R100ペットボトル」や「キリン アルカリイオンの水」に使用している国産最軽量2L PETボトルを展示するなど、各種イベントでも啓発活動を行っています。

キリン・スクール・チャレンジ
(FSCロゴ イメージ図)

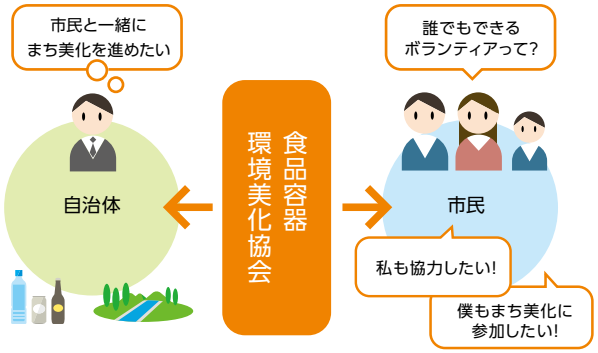
G20イノベーション展

キリンの容器開発と3R
https://www.kirin.co.jp/csv/eco/special/recycle/
KIRIN KIDS
https://www.kirin.co.jp/entertainment/kids/

アダプト・プログラム

公益社団法人 食品容器環境美化協会(食環協)は、飲料メーカー6団体が集まり、環境美化のための様々なPR・活動を行っています。キリンビールとキリンビバレッジもそれぞれ「ビール酒造組合」、「全国清涼飲料連合会」のメンバーとして参加し、「まち美化手法」である「アダプト・プログラム」活動の支援を行っています。

アダプト・プログラム



食品容器環境美化協会の主な活動

教育の支援

食環協では、環境美化の教育と実践に積極的に取り組んでいる学校を表彰したり、先生向けの環境教育ガイドを制作・提供するなどしています。

ポイ捨て防止キャンペーン

食環協では、道路沿いの立て看板や自動販売機へ「統一美化ステッカー」を貼付、「ポイ捨て防止」を呼び掛けています。

オーストラリアの容器デポジット制度とライオンの取り組み

ライオンは、オーストラリアの容器デポジット制度において積極的な役割を果たしており、南オーストラリア州とノーザンテリトリーの回収コーディネーターであるMarine Storesのマジョリティを保有しています。また、ライオンは、ニューサウスウェールズ州の容器デポジット制度、Exchange for Change(EfC)のコーディネートを行うジョイントベンチャーに参加しています。クイーンズランド州ではContainer Exchange Limited(CoEx)のメンバーになっており、クイーンズランド州の容器デポジット制度を管理・運営する製品責任団体に任命されています。

オーストラリアは現在、8つの州のうち5つにおいて容器デポジット制度を施行しており、残りのすべての州でも今後制度が導入されることが発表されています。西オーストラリア州は2020年6月、ビクトリア州は2022年または2023年、タスマニア州は2022年に導入される予定です。

ニューサウスウェールズ州では、制度の施行からわずか2年余りで30億本以上のびん・缶が返却されました。同州で返却される飲料容器の数は、一日平均700万個にのぼります。現在、州全体で640カ所の返却サイトが運営されています。

クイーンズランド州の容器払い戻し制度は2018年11月1日に開始し、230カ所以上の返却サイトが運営されています。

南オーストラリア州の制度も引き続き実施されており、販売された飲料容器の返却率は約76.4%と報告されています。

オーストラリア首都特別地域で制度が開始された最初の年には、2600万個以上の容器が返却・リサイクルされました。容器のリサイクル量の増加を目指して、新たな返却サイトは今後も拡張される見込みです。

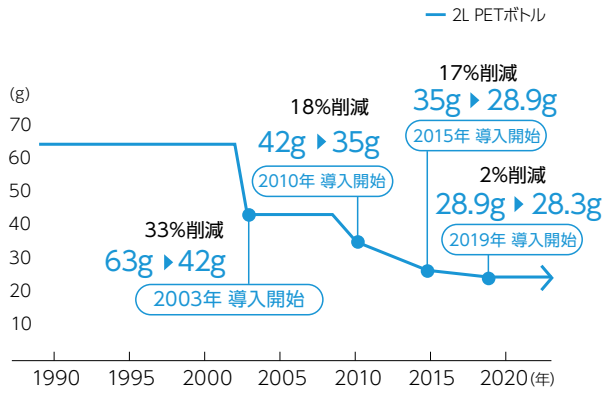
ノーザンテリトリーの制度も引き続き実施中で、2018～2019年の報告によると、返却率は10%増加し、総返却率は販売済み飲料容器の84%にのぼります。

ニュージーランドは、飲料容器が埋立地に廃棄される問題に対処するため、ニュージーランド全土への導入を想定した容器返却制度を構築中であると発表しました。他国で運営中の制度を元にニュージーランドの地理的ニーズやリサイクル要件を満たす制度が設計されます。この制度の設計案は、2020年8月にニュージーランド政府に提出される予定です。

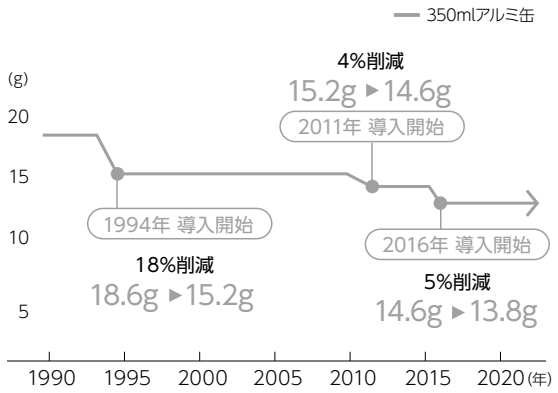
容器包装グラフ

関連情報は→P.87〜P.88

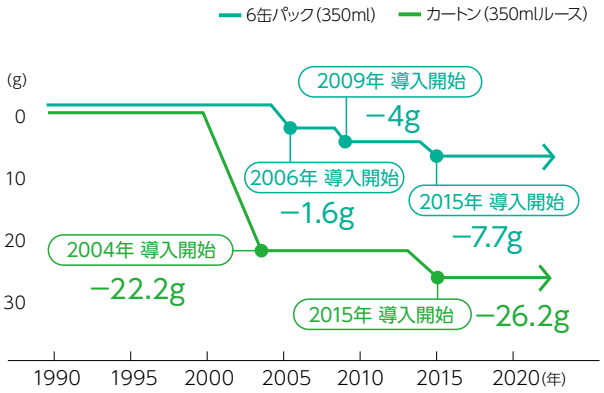
PETボトルの軽量化の推移



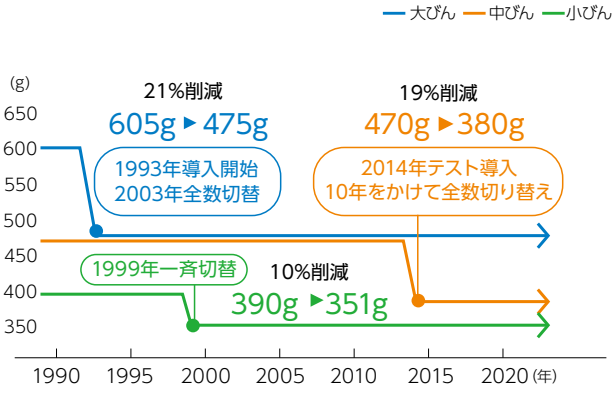
缶の軽量化の推移



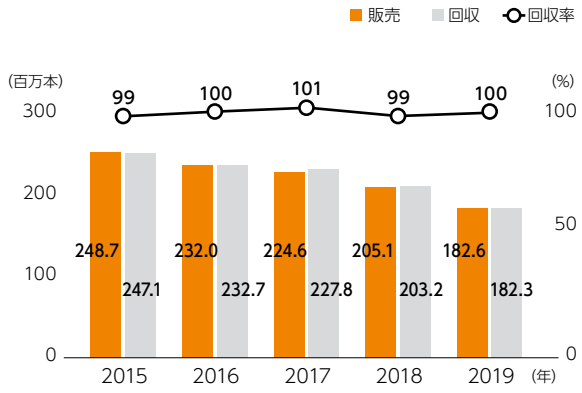
カートンと6缶パックの軽量化の推移



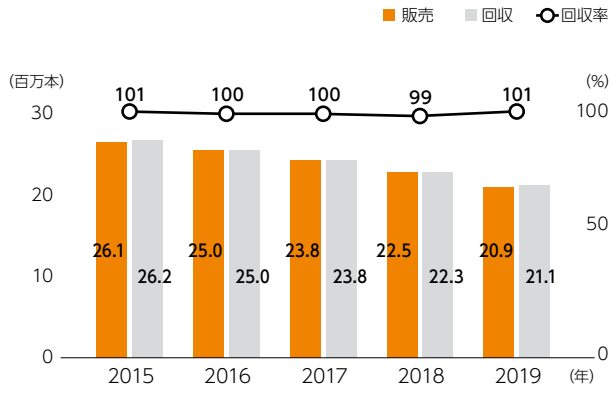
リターナブルビールびんの軽量化の推移



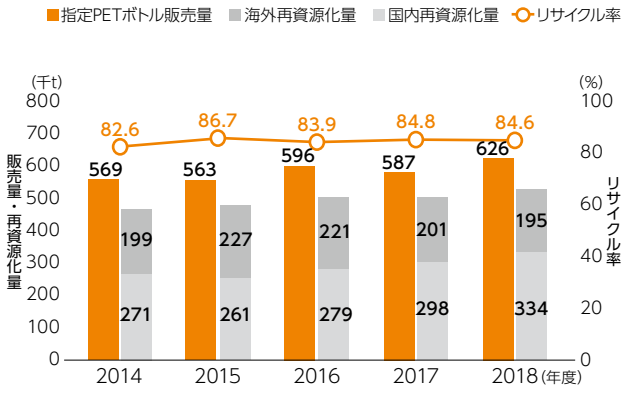
キリンビール リターナブルびんの販売回収の推移



キリンビバレッジ リターナブルびんの販売回収の推移

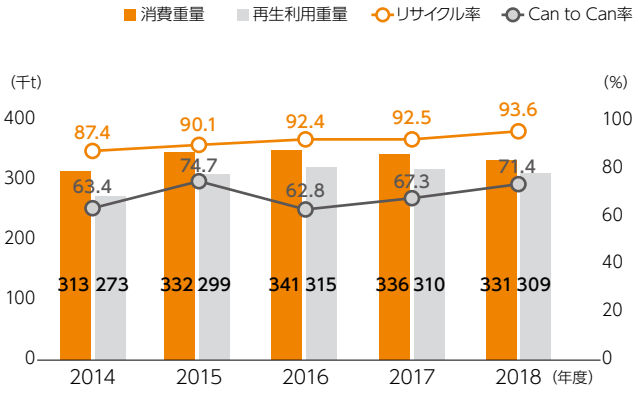


国内のPETボトルリサイクル率



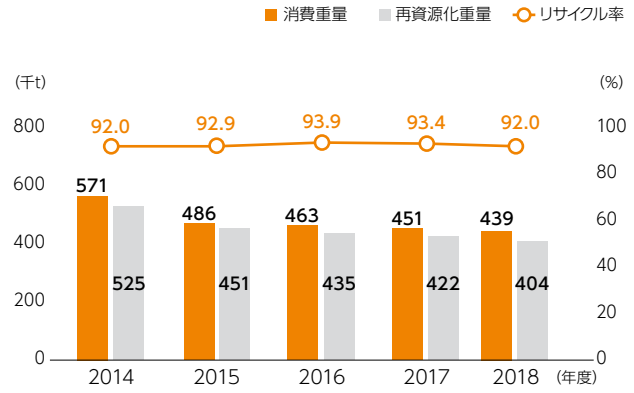
出典：PETボトルリサイクル推進協議会

国内のアルミ缶リサイクル率



出典：アルミ缶リサイクル協会

国内のスチール缶リサイクル率



出典：スチール缶リサイクル協会

容器包装の取り組みは、下記のウェブサイトで随時更新しています。
https://www.kirin.co.jp/csv/eco/mission/package.html